



ほんばこ



愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2020

明けましておめでとうございます。本年もほんばこをよろしくお祈りします。

寒さも極まってまいりましたが、体調を崩さないように気を付けましょう。

1月(睦月 初春月 早緑月)

＊＊二十四節気＊＊

しょうかん 小寒 6日

寒さが極まるやや手前の頃です。「寒の入り」といい、節分までの約1か月が「寒の内」です。

だいかん 大寒 20日

一年で最も寒い時期です。酒や味噌など寒気を利用した食物が仕込まれ、これを「寒仕込み」といいます。

図書委員からお薦めの本

『博士の愛した数式』 小川 洋子 著 新潮文庫

「ぼくの記憶は80分しか持たない」1975年から博士の時間は止まってしまった。博士のもとへ家政婦として訪れた「私」が最初に聞かれたのは靴のサイズなどのありとあらゆる数字だった。毎日が初対面の博士と家政婦の私、そしてその息子「ルート」が織りなす愛の物語。

実はこの本は、私が長い間読むことを疎んできた本です。数学が苦手だったためです。しかし、一度読んでみると数の魅力に惹かれ、登場人物の愛に惹かれ、どんどん好きになりました。ぜひ読んでみてください。(本のあとがきを参考にした。)(1年生女子)



薦めてみる本

『人は愛するに足り、真心は信ずるに足る』

中村 哲 澤地久枝 (聞き手)

岩波書店(H22.2)

中村哲; 1946年生まれ。医師。PMS(ペシヤワール会医療サービス)総院長。1984年、パキスタン北西部の都市ペシヤワールに赴任(ふにん)し、ハンセン病の治療やアフガン難民の診療に従事。近年は、ペシヤワール会現地代表として、アフガニスタンにおける水路建設など復興事業の先頭に立つ。若月賞やマグサイサイ賞など受賞多数。(本のカバーから)

聞き手: 澤地久恵(さわちひさえ); 1930年生まれ。作家。『妻たちの二・二六事件』『火はわが胸中にあり』『記録ミッドウェー海戦』『滄海(そうかい)よ眠れ』など著作多数。(本のカバーを参考にした。)

内容：中村哲への澤地久枝のインタビュー。「Ⅰ 高山と虫に魅（み）せられて Ⅱアフガニスタン、命の水路 Ⅲ パシュトゥンの村々 Ⅳ やすらぎと喜び」。上の紹介にある通り、中村哲は、実際にアフガニスタン・パキスタンの現場で長年活動し、現地で絶大な尊敬と信頼を勝ち取っている。彼の語る言葉は重い。この本では、中村哲の生い立ちや考え方も語られる。

本文中の中村哲の言葉から；

・父は、「世の中のお役に立たなければいけない、おまえはそのために生まれてきたんだ」と言う。

(p.39)

- ・私たちが感ずる「神聖さ」の根源は、人が語り得ない奥深いところで輝いている。一方、その「事実」を人知は定義できない。何かしら人の超えてはならぬ「神聖な空白地帯」を、その地域と時代で共有できる形で戴（いだ）いている。だから、その事実に触れるものは、なに教徒であろうと、決して宗教が異なるからと言って人を排斥（はいせき）することはないかと思えます。(p.61)
- ・マドラッサ（注：モスクを中心とした、地域共同体の中心）で学んでいる子どもを、タリバンというのですが、・・・マドラッサで学ぶ子どものタリバンと、政治勢力としてのタリバンは違うのです。その区別もよく分からずに、「タリバンが集結している」というので爆撃して、「タリバンを八十名殺した」と新聞に載（の）る。死んだのは皆、子どもだったとかね。タリバン＝過激思想の持ち主じゃないんですよ。(p.76)
- ・用水路で、いままで沙漠化した土地が潤い、皆が食べられるというときにも、皆、大喜びをしましたけれども、・・・(マドラッサを建てる時には)それと同じか、それ以上に、皆が喜びました。(p.80)
- ・私たちとしては、用水路をつくり、そこで生きていく人たちに、衣食足りて礼節を知るといいますけれども、困った人たちを助けるような気風、それを消さないようにする。一見まわり道でも、それが長い目で大切なことだと思います。(p.103)
- ・いわゆるテロ実行犯と言うのは、アラブ系のエリートで、ほとんどがドイツ、アメリカ、イギリスで育った若者たちです。・・・テロの温床（おんしょう）は、実は先進国の病理です。(p.158~p.159)
- ・人類がどんなに変化してもなくなることはないのは、農業という営みだと思うんですね。食べ物を作ることです。アフガニスタンは、それがじかに見えるところで、水さえあれば、これだけ豊かで平和な生活ができるのだという実証があれば、たいへんな力になると思います。それも半端（はんぱ）な数じゃないですよ、六十万人（注：中村哲たちが灌漑しているのは14000ha、そこで60万人の農民が暮らしている）という。その実証がモデルとなって、自然に広がっていく気がします。(p.188)

中村氏が読んできた本；この本では中村哲の成育歴も語られる。その中で中村哲が影響を受けた本のいくつかに触れている。

- 1 『論語』：子どもの頃父親から『論語』を陽明学の読み方でしこまれた。(p.28,p.60)
- 2 フェアブル『昆虫記』：虫の研究をして暮らすのが夢だった。(p.39)
- 3 内村鑑三『後世への最大遺物』：若い日に読んで深い影響を受けた。(p.43)
- 4 フランクル『死と愛』およびカール・バルトの著作(p.49)、またキェルケゴール『死に至る病』

*中村氏は2019年12月惜しくも銃撃によって他界された。

(図書研修課員)